

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナの影響もあり家族が施設に訪れる機会が殆どない。利用者の意見を聞く為の機会がない。自ら声を上げられる利用者の意見は反映されるが、そうでない人の意見は見過ごされやすい。	利用者、家族の意見を聴く機会を設けて、それを運営に反映させて、充実感を持って生活して頂く。	毎月、利用者会議を開き意見を聴く。毎月、家族にたんぽぽ新聞を届けて施設の様子を伝える。その上で3カ月に1回は家族から要望を聞く機会を作る。利用者と家族の意見をミーティングで取り上げ、運営に反映させる。	3ヶ月
2	26	利用者や家族の想いを記録する書式が不足している。口頭でのやりとりが主になっている為、職員により保持している情報にムラがあり、共有に時間がかかる。また、記録された情報に比べ、口頭の情報は正確さで劣る。	見やすく書きやすい書式を使い、職員間で正確な利用者情報を共有する。それによりタイムリーなケアを行う体制を作る。	毎月、日誌の内容を見直し、使いやすいように更新していく。午後の時間帯の記録は薄くなりやすいので、午後に記録時間を作る。必要な記録不要な記録の仕分けを行う。記録のルールを明文化する。	6ヶ月
3	36	グループホームは利用者の家であり、利用者が生活の主体だが、職員の言葉が強すぎると、利用者が委縮してしまう。それでは人生を自分らしく生きることが出来ない。	職員は利用者の人格を尊重した声掛けをすることが出来るようになる。グループではあるが、ホームという意識で利用者が楽しく暮らせる環境を作る。	共同生活としての最低限のルールを明文化する。研修を通して人格の尊重について学ぶ。人格の尊重を意識した声掛けが出来るか、月に1度、自己評価表で確認する。	3ヶ月
4	49	活動範囲が狭い室内に限定される為、下肢筋力の低下につながる。ストレスもたまると思われる。	定期的に外出の機会を設けて、ストレス発散と適度な運動が出来る。	週に1度は隣接する公園に散歩に行くようにする。表にシールを貼り、外出を記録する。シールが増える事により、利用者も意欲的になる。	2ヶ月
5	35	災害時に適切な行動がとれないと、利用者の命を危険にさらすことになる。あらゆる災害に対応する訓練を全職員に対して行わなければならない。	災害に対する万全の備えが出来る。会社の災害対策方法を全職員が理解する。	年間をかけて災害対策訓練を全職員に対して行う。チェック表にだれがどの訓練を行ったかを記録していく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。